

自閉症や知的障がいのある子へのコミュニケーション支援講演会報告

講師 香川大学教育学部 特別支援教室 准教授 坂井聡氏

平成24年10月12日(金)

於 奈良県社会福祉センター5F 研修室B・C

～障害観の変化を知る～

【ICFの概念】

特別なものから「誰もがもつ状態」として障害をとらえる

障害とは、活動ができないことや参加できないこと

障害者も健常者と同じ生活ができてあたりまえ（ノーマライゼーション）

～わかるように伝えているか～

わかるように書いてあってもできないことがある \Rightarrow わかるように伝えていない

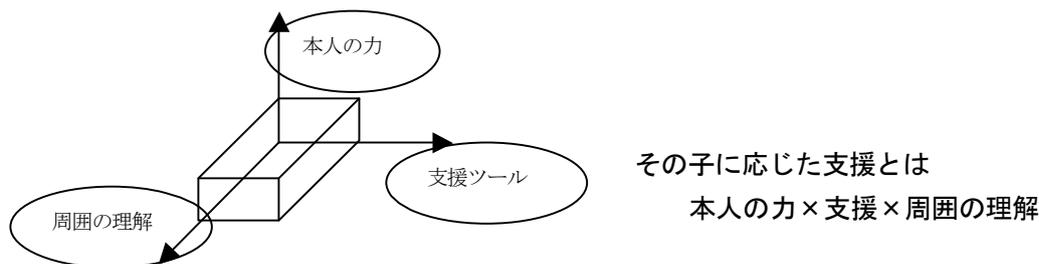
何回言ってもわからないねと言っていないだろうか

ちゃんと人の話を聞きなさいと言っていないだろうか

わかっていることはできるがわからないことはできない（健常者も同じ）

～どんな方向で支援する必要があるか～

- ・困っていることは何か⇒どう解決するか
- ・もっている力を出させ、できないことは助けてもらうことがその子に応じた支援



～何ができないでなく、何に困っているか～

- ・伝えられたことが理解できない⇒本人にわかるように話す
- ・伝えられたことが記憶できない⇒ひとつずつ伝える・書いておく
- ・オウム返りする⇒理解していない⇒もう一度伝える
- ・叱られている時に笑う⇒伝わっていない⇒こちらが合わす
- ・挨拶しない⇒どの距離でするか伝える・何時から何時の間はこんにちとは具体的に
- ・昨日までできていたことができない⇒理由がある（どうしてできないのかと言ってないか）
- ・痛いと言えない・困ったと言えない⇒ネガティブな表現を教える（それが本当の力となる）
- ・周囲の状況から判断できない（危険、情報を選ぶことができない）⇒私たちが合わす
- ・問題行動⇒納得していないから起こる⇒何が言いたかったか考える
- ・場の空気をよめない⇒具体的な表現を教える

～不適切な関わりを変える～

- ・視線を合わせる練習⇒あごを見るように
- ・反応するまで話しかける（返事を求める）⇒呼びかけていることがわからない⇒名前を呼んで肩をたたく
- ・相手の気持ちを理解しろと言葉で指導⇒表現の仕方を具体的に
- ・偏食指導で泣かせる⇒減らしてやる⇒食べられたと褒める場面を作る
- ・嫌いな音に慣れさせる⇒イヤーマフ・耳栓の使用（耳ふさぎの理由を観察）

～遊びの発達段階を知る～

遊びの発達段階（接近→並行遊び→共有→順番を待って遊ぶ）

- ・自分の子供がどの段階にあるかを知る
- ・無理に集団で遊ばせなくて良い⇒人を意識させる・協力させることは経験させる
（6年生ぐらいまでにできればよい）

～伝わらなかったら

- ・なぜだろう・・・どのような方法が有効か考える
- ・本人が納得するようにする
- ・本人の気持ちに同調する

～安心できる環境を作る～

- ・予測可能で理解しやすいもの（いつ・どこで・何を・誰と・いつまで・終わったら何をする）
- ・理解できる・身近な関心ごと⇒これならできるかなと思えるように伝える
- ・これを使えばひとりでできる支援グッズを使う（携帯、パソコン、メール、カメラなど）
- ・メールでコミュニケーション⇒言葉で理解できないことも文章になると頭の中で整理しやすい

特別支援アプリ

富士通より10月12日 無料アプリが公開された

感情・タイマー・絵カード・筆順ひらがな・筆順漢字の5種類

（アンドロイドスマートフォン・タブレットに対応）

～コミュニケーションのきっかけを作る～

- ・要求・注目・拒否は誰にでもある⇒視点をかえてみる・失敗をおそれない
- ・これしかできないでなくこんなにもできると考える⇒褒める場面が増える⇒自信がつく
- ・何を考えているか・どう考えているかを知る
- ・役割を与える⇒できる⇒褒める
- ・二つの選択肢から選ぶ楽しさを与える
- ・やる気と愛情、コミュニケーション技術が大切

最後に

自閉症や知的障がいのある子へのコミュニケーション支援講演会に、保護者の方々だけでなく、事業所関係、療育関係からも多数で参加いただきありがとうございました。たくさんの支援者に支えられながら、すべての障害者が、あたりまえに暮らせる社会実現のため、今後も情報提供の場を持ちたいと思います。

今回、坂井聡先生のお話を拝聴させていただき、私自身が変わるきっかけになりました。

子育て支援部 太田淳子